



2018.11.16(金) 第4回学び合いの授業づくり 研究授業!!

○学びの形大きく転換(次期学習指導要領)

小学校から高校まで、全てに導入される「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)は教員の教え込みではなく、児童生徒同士の学び合い、教え合いを授業で増やそうとする試みです。「何を学ぶか」より、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」に力点を置いています。

○大学入試が変わる(高大接続改革)

高校教育、大学教育、それをつなぐ大学入試を一体的に変えていこうという動きです。グローバル化や人工知能(AI)の技術革新など、社会は急速に変化しています。従来型の暗記重視の教育とは違い、新たな価値を創造する能力を育もうという考えが出发点にあります。

文部科学省は、時代に対応するため「学力の3要素」((1)知識・技能(2)思考力・判断力・表現力(3)主体性を持ってさまざまな人と協働して学ぶ態度)が重要としています。

教育現場では特に大学入試改革が注目されています。これまでのセンター試験が2019年度で廃止され、20年度から大学入学共通テストが導入されます。例えば国語と数学で記述式の問題が増えます。選択肢の中から正答を選ぶマークシート式だけでなく、自分の考えをまとめて論述する力が求められます。

○本校の「学び合いの授業づくり」の取組

11月16日(金)に、本年度第4回目の「学び合いの授業づくり公開研究授業・公開研究協議会」として「学びの共同体スーパーバイザー」の馬場宏明先生に来校いただき、本校の学び合いの姿を見ていただきました。

研究授業では、2年生の英語の授業を本校の草田裕基先生に提案していただき、本校教員と市教委指導主事、他校からの参観がありました。

草田先生の授業は、題材を「接続詞 that」、ねらいを「考えを理解したり伝えたりすることができる」として授業が展開されました。

授業では、まずはウォーミングアップということで、草田先生のALL Englishの指示によりペア学習から始まりました。生徒同士が英語で話し合っている姿がほほえましく映りました。次に男女4人一組のグループになり共有の課題(誰も理解すべき教科書レベルの課題)に取り組みました。グループの仲間同士で訊き合い学び合う姿を見ることができ、ほほえましく、和やかな雰囲気です。

授業の後半ではジャンプの課題(共有の課題を基礎として挑戦する教科書レベル以上の質の高い課題)に取り組みました。難しい課題に取り組み、わからないことを訊き合える姿も見ることができました。

スーパーバイザーの馬場宏明先生からは以下の助言をいただきました。

・本日の授業は英語に親しませることができた授業であった。「言語は耳から」というが、常に英語に触れさせるALL Englishに近い授業、英語を身体に張り付かせる授業となった。
・わからないことを「訊(き)けない」子が多い。わからないことを「わからないから教えて」と言えることができれば、この授業はもっと進む。普段の授業から「わからなかったら(グループの人に)訊こう」と教員が伝えることが大切だ。

・先生が説明するのではなく、子どもに子どもの言葉で説明させる。その説明について教員が問いを重ねて丁寧な説明にさせていくことが「学び」の深まりになる。

・「学び合い」は脳を働かせること。脳を働かせて「わかりたい」と思った「教えて」と言える。

・わからない者同士が、わかろうと挑戦する姿、あきらめないで考えようとする。このスタイルが「学び合い」だ。

・課題を易しくしすぎたら、ちょっと難しい課題にギブアップする子が多くなる。

普段から難しい課題を与え、チャレンジ(挑戦)する心を育てること。

(学校長 東方 美喜夫)

グループ学習の約束

- まずは独(ひと)りで考えよう
- わからなかったら訊(き)こう
- 訊(き)かれたら応(こた)えてね
- 訊(き)かれるまでは教えない



ペア学習(ALL English)



共有の課題(まずは自力解決)



ジャンプの課題に挑戦(わからなかったら訊こう)



発表させる(子どもの言葉で説明させる)